

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット／1階ユニット)

事業所番号	2796300453		
法人名	株式会社ハートコーポレーション		
事業所名	グループホーム上野芝		
所在地	大阪府堺市西区北条町1丁8番21号		
自己評価作成日	令和4年9月23日	評価結果市町村受理日	令和4年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和4年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るく楽しい家庭的な環境」「安心・快適・尊厳のある生活」「入居者様に応じた自立の支援」を経営理念として、ご利用者様にサービスの提供を行っております。コロナ禍以前は年2回の行楽行事や、施設内行事、他施設の方を招いての上野芝喫茶などを開催しており、また、地域交流として自治会でのいきいきサロンや地域の盆踊りや地蔵盆に参加させて頂いておりました。建物に沿った庭では、四季の花や野菜を植えて栽培して入居者様と一緒に水やりをして笑顔を保っています。医療関係者と職員が連携をとり、健康・安全・安心で過ごして頂けるように支援を行い、家族様との報告・連絡・相談は随時対応をしてサポートさせて頂いており家族様に喜んで頂いています。これを維持から向上できるように管理者がしっかりとし入居者様・職員を守り家族様にも安心して頂けるサポートを行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設後19年を過ぎ、2年前に現法人に受け継がれ、利用者・職員は変わりなく日常を過ごしている。最寄り駅より徒歩10分の川沿いの住宅地に位置し、近くには百舌鳥古墳群が点在している。設立時より近隣住民と交流し、他事業所と運営推進会議に参加し合い、情報交換して良好な関係を築いている。コロナ禍でも近くの地蔵さんへの散歩を日課としている。節分や母の日などの行事を毎月計画し、利用者の笑顔の写真をホームページに掲載している。管理者自ら花作りをしていて利用者は水やりをし、以前は栽培したトマトやピーマンが食卓に出ることもあった。軒下にはテーブルとベンチを置き、花を眺めたり、気候の良い日は食事を楽しんでいる。利用者は掃除・洗濯物畳みや椅子の修理など出来ることをしながら、職員の見守りを受けて穏やかに暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げて家庭的な環境、安心、快適、尊厳のある生活の中で自立支援を目的とし管理者と職員で共有し実践につなげている	法人の経営理念、事業所の運営方針は毎月の「上野芝便り」に記載している。管理者・職員と話し合い、「共に笑い・共に感じ・共に歩む」を事業所独自の理念とすることを検討中である。	事業所理念を皆で話し合い作成中であり、作成後は玄関やフロア・職員室などに掲示して意識付けることを望む。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は月1回の地域交流のいきいきサロンへの参加・年に1回の地蔵盆や地域の盆踊りに参加していた	自治会に加入し、回覧を受け取り情報を得ているが、今は盆踊りや自治会行事の生き生きサロンは中止で、交流は出来ていない。コロナ禍収束後は、ボランティアの受け入れや自治会行事に参加したり、事業所の行事に参加してもらう予定である。散歩に出かけた時は近隣住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以前は地域交流いきいきサロンに利用者と参加することで、認知症の方のことを理解してもらう機会となっていた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況やご様子を報告し、それぞれの立場からの意見やアドバイス聞きサービスの向上を目指し活かしている	会議は、2か月に1度書面開催とし、自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員・家族・他事業所管理者・他施設長に事業所の現況報告資料(行事・事故・研修)を送っている。骨折事故では、コロナ禍による職員の疲労などについて意見やアドバイスをもらい、職員一同留意してケアに当たっている。議事録は家族に送る用意をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活支援課や社協との連携を密にとり、利用者の状況やご様子・施設の実情やケアサービスをお伝えしより良い関係を築ける様取り組みしている	区の地域福祉課や生活支援課に必要な書類を郵送しており、分からない時には電話で聞いている。コロナ感染情報や支援物資の申請、抗原検査キッド・ワクチン接種情報はメールでやり取りしている。グループホーム連絡会に加入しているが、今は中止になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を実施して、全ての職員で再認識し理解しているがご家族様確認の元玄関の施錠はしている	身体拘束適正化の為の対策を検討する委員会を3か月に1度開催し、議事録は職員に回覧して身体拘束についての知識を確認している。身体拘束についてのマニュアル、身体拘束等の適正化の為の指針を用意し、年2回研修を実施している。スピーチロックは、「だめではなく」「どうしましたか？」と聞くなど具体的に話をして、拘束の無いケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を実施して、全ての職員で再認識している。職員が日常の介護業務で疑問に思ったことは、その都度検討している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	堺市の権利擁護事業を利用している方もおられ、職員で学ぶ機会を持っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書は全て読みあげ行い質疑応答にもしつかり説明し納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、管理者がおもに面会時等に家族様へ意見を頂き反映させている	家族の要望は電話や訪問時に聞き、「面会したいと」の要望で、フェイスシールド・アクリルボードの感染対策をして予約制で面会を実施している。利用者の「ずっと歩きたい」の希望で、毎日近くの地藏さんに出かけている。利用者の変化があれば都度電話をして状況を伝え、要望も聞いてノートに記録して会議で話しケアに取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、管理者と職員との面談を設ける機会や月1回会議を開催し職員の意見・提案を聞き反映させている	毎月の職員会議で意見を聞く機会を設け、会議終了後のアンケートで言えなかったことを聞いて運営に反映する工夫をしている。会議時に毎月の行事担当を決め具体的に話し合っている。年2回管理者との面談を実施し、現状の様子や希望を聞き、研修の情報や資格取得への支援を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に施設を訪問しており、職員に相談にのっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人で行く研修案内を含めて、堺市認知症介護実践研修の受講や法人内外の研修を受ける機会や毎月1回施設内研修を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、堺市の管理者会議に毎月参加し、より良いサービスが出来るよう情報交換をおこなっている		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、本人、在宅時のケアマネより情報収集の元傾聴・共感を大切に、安心して頂けるよう関係づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い・不安事など傾聴・共感し関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかりと面談の時間を持ち、必要とされている支援・他の必要とされる利用などできるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務をしながらも、生活の一員として関わっていくことを心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診の付き添いや買い物など、家族のできない部分を補いながら家族との絆を大切にしながら共に本人を支えていける関係性を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に関係のあった知人が、面会に来られたりされている	家族や親戚の人が面会に来てくれている。家族に昔の写真を持ってきてもらい、懐かしい写真を見て話がはずんでいる。家で居る時のように毎日新聞を読んでいる利用者がある。利用者は長年馴染んだ掃除や食器洗い洗濯物畳みなど家事をしたり、花壇の水やりに参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置などに配慮し利用者同士の関わり合いや自然に支えられ笑顔になれるような支援を大切にしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ過以前は病院へのお見舞いや、葬儀への参列等、信頼関係や想いを大切に相談や支援に努めている		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で常に気づきを大切に一人ひとりの把握をして検討を行い、困難な時は本人の今までを大切に検討している	入居時に集めた情報を把握して、毎日利用者と話すする時間を取って本人の思いを聞くようにし、聞いた言葉を記録して職員間で共有し支援している。利用者の「毎日歩きたい」との希望は、ケアプランに取り入れている。言葉に出来ない人は家族から情報をもらい、利用者の思いに沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	看護サマリー、フェースシート、薬剤情報等、本人・家族・ケアマネからの聞き取りで把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活に出来る限り関わり気づきを大切に介護職員からの情報など現状の把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との会話や観察、家族様の面会時での話し合いや現状の報告、カンファレンスや会議での情報共有から意見・アイデアを反映し、現状に即した介護計画を心がけ作成している	介護計画の短期目標6か月、長期目標1年としている。計画は、家族や利用者の希望を聞き、毎月のモニタリングを基にケアマネジャー・管理者・リーダーが参加して担当者会議を開催して作成している。利用者の体調に変化があれば随時見直し、その人に合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・状態の気づきを大切に介護日誌の記入、申し送りや連絡ノートで情報共有し実践し結果や状況で介護計画やケアの見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況に応じて個人受診や買物など、出来る限りの柔軟な支援サービスを行い、多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は地域交流いきいきサロン、地域の盆踊りなどに参加したり、施設の行事でボランティアを活用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き、入所前のかかりつけ医の受診をしたり、適切に必要な医療への受診も支援している	従来からのかかりつけ医には原則家族が同行して受診し、文書と口頭で利用者の状況を伝えてもらい、口頭で結果報告を受けている。他の人は協力医療機関をかかりつけ医とし、内科は月2回、歯科・歯科衛生士(希望者)は週1回の訪問診療を受けている。整形外科・精神科も、原則家族が同行して受診するのを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な往診や訪問看護師と連携をとって支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医の情報提供書・今の生活状態を正確に伝え安心して治療を受けて頂き早期の退院が出来るように医療関係者との情報交換・相談に努め関係づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の思いを聞いた上で話し合う機会を持ち、事業所ですることを十分に説明して、段階を経て選択肢を共有し提供などを行い、チームで支援をしている	入居時に「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を利用者・家族に説明し同意書を得ている。利用者が重度化した時は、再度指針と対応方針を説明し同意書を得ている。事業所での対応が可能で、家族の意向があれば看取る方針であり、これまで数名を看取り、本年2月にも1名を看取った。	今後、終末期や看取りに関する職員の対応について、マニュアルや手順書を作成し、医師・看護師の協力を得て職員研修を実施して、更に利用者・家族の意向に沿った対応を行う体制を構築することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成したり、訓練を定期的に行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設の近隣や地域の民生委員、消防などとの協力体制をつくり、避難訓練を定期的に行っている。	「災害時マニュアル」を作成し、利用者も参加して、年2回(内1回は夜間想定)自主避難訓練を実施している。地域との協力体制を築き、ほぼ全員の職員が近くに在住しているので、夜間でも協力が得られる。水・食料など3日分を備蓄し、ラジオ・懐中電灯・発電式ランプ・雨具・ガスボンベなどを用意している。	前回の外部評価時に策定した目標達成計画が未達成であり、職員に対して災害時対応研修と、事前通達無し電話連絡訓練を実施することを期待する。また、地震・風水害対策の職員への周知や、事業継続計画の策定を望む。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	立場が逆転していることが多く見られている、もっとひとりひとりの人格を尊重し気付きを大切に言葉をしないといけないことを理解する	プライバシー保護マニュアル・接遇マニュアルを作成し、プライバシーの確保、接遇マナーの研修を実施して、常に利用者を尊重した対応や言葉かけに努めている。不適切な対応があれば、管理者やリーダーが注意して正している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身から言葉に表せるような雰囲気作りに努め、声かけ・気づきを持ち関わり働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中でも、居室で食事をとりたい方は本人の気持ちを大切にしてお風呂の順番なども意向にそっての支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に女性の方などは、その日に着る服などご自身で選んでもらったり、希望する化粧品などを購入したりもしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、食事の準備などは一緒にできていないが、洗い物はお一人様はして下さり食事中は音楽を流して楽しい雰囲気作り等は行っている	パン主体の朝食は事業所で作り、昼食と夕食は、業者の献立と食材を用いて各ユニットで調理し提供している。ちらし寿司・おせち・そうめんなどの季節食も提供し、敬老会では要望の多い握り寿司を取り寄せて楽しんだ。また、たこ焼き・お好み焼き・ホットケーキなどを利用者と一緒に作って楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は把握しながら、その方の摂取力に応じて、トロミや寒天などを使用して工夫して支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日常の口腔ケアと、週1回の歯科往診による口腔ケアを行い、義歯の状態なども診てもらっている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、トイレでの排泄ができるよう、自立に向けた支援を行っている	おむつ使用の利用者1名の他は布パンツかりハビリパンツ・パッド使用で、個々の排泄パターンやサイン(激しく動く、車椅子から立ち上がるなど)を把握して、適時にトイレ誘導して自立排泄を支援している。夜間は3時間毎に見回り、個々の状態に合わせておむつ・パッド交換やトイレ誘導を行い、ポータブルを使用している人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方の水分・食事摂取の把握をしながら、何が足りないかを考え工夫をしたり、体操や散歩などここに応じた取り組みをしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日と時間は固定していて対応は難しいが、汚染などがあった時は入浴して頂く事もある	週2回午後の入浴を基本とし、嫌がる利用者には、日時や声かけのタイミングを替えたり、別フロアで入浴するよう支援している。重度の人は、2人で介助して入浴したり、シャワー浴と足浴を行って清潔を保っている。同性介助の希望にも応じている。利用者は、菖蒲湯や入浴剤で入浴を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後から臥床される方や、夜遅くまで起きておられる方など、その方の入眠状況に対応し気持ちよく入眠できる声掛けなどにも工夫している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況では薬剤情報のファイルがあり、状態の変動がある時は申し送りノートに記入し口頭でも行ない、服薬時は読み上げ・飲み込み・袋の確認を行い十分な注意をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ・テーブル拭きやその方に応じた役割を持って頂き、塗り絵・パズル・カラオケ・生け花など様々なことに取り組んだ支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や、地域の公民館の催しに参加したり、一緒に買物に出かけたり、外出の機会を持つような支援をしている	コロナ禍の中でも、車椅子使用の利用者も含めて、近くの公園(地藏さん)まで毎日15分程散歩している。2階の利用者を含めて、1階花壇の季節の花(ひまわり・コスモスなど)に水やりしたり、ベンチに座って外気に触れている。以前は年2回行楽行事を実施していたがコロナ禍で中止している。家族とは、通院時に一緒に外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は出来ない方がほとんどであり、所持している方はおられない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望があればいつでも電話をつなぐ支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ではお客様や家族様に気持ち良く入っていただけるように清潔にしてあり、農園で栽培した花をリビングに飾り、季節感を出している。壁に皆さんの写真を貼ったり、季節の飾付けをして空間作りをして工夫している	1階の食堂兼リビングのガラス窓は広くて高く、明るい日が差し込む。壁面には利用者と共作の季節の作品(今はハロウィン)や行事写真、歌詞などを掲示して季節感・生活感があり、1階の花壇や畑(今は休作中)の植栽で季節感を味わえる。経年劣化した物は修繕したり、危険な物(加湿器)は配置換えして安全を確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前のソファーなどで、過ごして頂くことができる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には以前使用していた物や、慣れ親しんだ物の持込をお願いし持参して頂き本人様の環境作りを大切にしている	居室には、ベッド・エアコン・タンス・カーテン・換気扇を設置し、利用者は家具・椅子・テレビ・家族写真・ぬいぐるみなどを思い思いに持ち込んで、居心地良い空間を創っている。足元に物を置かない、電気コードは壁際に寄せるなど、利用者の安全確保に留意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心・安全に自立した生活を送って頂けるように不要な物を片付け、わかりやすい配置や表示や一人ひとりのニーズにあわせた工夫している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/2階ユニット)

事業所番号	2796300453		
法人名	株式会社ハートコーポレーション		
事業所名	グループホーム上野芝		
所在地	大阪府堺市西区北条町1丁8番21号		
自己評価作成日	令和4年9月23日	評価結果市町村受理日	令和4年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和4年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るく楽しい家庭的な環境」「安心・快適・尊厳のある生活」「入居者様に応じた自立の支援」を経営理念として、ご利用者様にサービスの提供ををを行っております。コロナ過以前は年2回の行楽行事や、施設内行事、他施設の方を招いての上野芝喫茶などを開催しており、また、地域交流として自治会でのいきいきサロンや地域の盆踊りや地蔵盆に参加させて頂いておりました。建物に沿った庭では、四季の花や野菜を植えて栽培して入居者様と一緒に水やりをして笑顔を頂いています。医療関係者と職員が連携をとり、健康・安全・安心で過ごして頂けるように支援を行い、家族様との報告・連絡・相談は随時対応をしてサポートさせて頂いており家族様に喜んで頂いています。これを維持から向上できるように管理者がしっかりとし入居者様・職員を守り家族様にも安心して頂けるサポートを行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げて家庭的な環境、安心、快適、尊厳のある生活の中で自立支援を目的とし管理者と職員で共有し実践につなげている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過以前は月1回の地域交流のいきいきサロンへの参加・年に1回の地蔵盆や地域の盆踊りに参加していた		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ過以前は地域交流いきいきサロンに利用者と参加することで、認知症の方のことを理解してもらった機会となっていた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況やご様子を報告し、それぞれの立場からの意見やアドバイス聞きサービスの向上を目指し活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活援護課や社協との連携を密にとり、利用者の状況やご様子・施設の実情やケアサービスをお伝えしより良い関係を築ける様取り組みしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を実施して、全ての職員で再認識し理解しているがご家族様確認の元玄関の施錠はしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を実施して、全ての職員で再認識している。職員が日常の介護業務で疑問に思ったことは、その都度検討している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	堺市の権利擁護事業を利用している方もおられ、職員で学ぶ機会を持っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書は全て読みあげを行い質疑応答にもしっかりと説明し納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、管理者がおもに面会時等に家族様へ意見を頂き反映させている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、管理者と職員との面談を設ける機会や月1回会議を開催し職員の意見・提案を聞き反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に施設を訪問しており、職員に相談にのっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人で行く研修案内を含めて、堺市認知症介護実践研修の受講や法人内外の研修を受ける機会や毎月1回施設内研修を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、堺市の管理者会議に毎月参加し、より良いサービスが出来るよう情報交換をおこなっている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、本人、在宅時のケアマネより情報収集の元傾聴・共感を大切に、安心して頂けるよう関係づくりに努めている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い・不安事など傾聴・共感し関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかりと面談の時間をもち、必要とされている支援・他の必要とされる利用などできるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務をしながらも、生活の一員として関わっていくことを心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診の付き添いや買い物など、家族のできない部分を補いながら家族との絆を大切にして共に本人を支えていける関係性を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に関係のあった知人が、面会に来られたりされている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置などに配慮し利用者同士の関わり合いや自然に支えられ笑顔になれるような支援を大切にしている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ過以前は病院へのお見舞いや、葬儀への参列等、信頼関係や想いを大切にし相談や支援に努めていた		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で常に気づきを大切に一人ひとりの把握をして検討を行い、困難な時は本人の今までを大切に検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	看護サマリー、フェースシート、薬剤情報等、本人・家族・ケアマネからの聞き取りで把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活に出来る限り関わり気づきを大切にして介護職員からの情報など現状の把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との会話や観察、家族様の面会時での話し合いや現状の報告、カンファレンスや会議での情報共有から意見・アイデアを反映し、現状に即した介護計画を心がけ作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・状態の気づきを大切にして介護日誌の記入、申し送りや連絡ノートで情報共有し実践し結果や状況で介護計画やケアの見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況に応じて個人受診や買物など、出来る限りの柔軟な支援サービスを行い、多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過以前は地域交流いきいきサロン、地域の盆踊りなどに参加したり、施設の行事でボランティアを活用していた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人や家族の希望を聞き、入所前のかかりつけ医の受診をしたり、適切に必要な医療への受診も支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な往診や訪問看護師と連携をとって支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医の情報提供書・今の生活状態を正確に伝え安心して治療を受けて頂き早期の退院が出来るように医療関係者との情報交換・相談に努め関係づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の思いを聞いた上で話し合う機会を持ち、事業所ですることができる所を十分に説明して、段階を経て選択肢の共有し提供などを行い、チームで支援をしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成したり、訓練を定期的に行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設の近隣や地域の民生委員、消防などとの協力体制をつくり、避難訓練を定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	立場が逆転していることが多く見られている、もっとひとりひとりの人格を尊重し気付きを大切に言葉をしないといけないことを理解する		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身から言葉に表せるような雰囲気作りに努め、声かけ・気づきを持ち関わり働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中でも、居室で食事をとりたい方は本人の気持ちを大切にして入浴の順番なども意向にそっての支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に女性の方などは、その日に着る服などご自身で選んでもらったり、希望する化粧品などを購入したりもしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、食事の準備などは一緒にできていないが、洗い物はお一人様はして下さり食事中は音楽を流して楽しい雰囲気作り等は行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は把握しながら、その方の摂取力に応じて、トロミや寒天などを使用して工夫して支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日常の口腔ケアと、週1回の歯科往診による口腔ケアを行い、義歯の状態なども診てもらっている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、トイレでの排泄ができるよう、自立に向けた支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方の水分・食事摂取の把握をしながら、何が足りないかを考え工夫をしたり、体操や散歩など個々に応じて取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日と時間は固定しているて対応は難しいが、汚染などがあつた時は入浴して頂く事もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後から臥床される方や、夜遅くまで起きておられる方など、その方の入眠状況に対応し気持ちよく入眠できる声掛けなどにも工夫している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況では薬剤情報をファイルあり、状態の変動がある時は申し送りノートに記入し口頭でも行ない、服薬時は読み上げ・飲み込み・袋の確認を行い十分な注意をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ・テーブル拭きやその方に応じた役割を持って頂き、塗り絵・パズル・カラオケ・生け花など様々なことに取り組んだ支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過以前は地域の公民館の催しに参加したり、一緒に買物に出かけたり、外出の機会を持つような支援をしていた		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は出来ない方がほとんどであり、所持している方はおられない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望があればいつでも電話をつなぐ支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ではお客様や家族様に気持ち良く入っていただけるように清潔にしてあり、農園で栽培した花をリビングに飾り、季節感を出している。壁に皆さんの写真を貼ったり、季節の飾付けをして空間作りをして工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前のソファーなどで、過ごして頂くことができる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には以前使用していた物や、慣れ親しんだ物の持込をお願いし持参して頂き本人様の環境作りを大切にしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心・安全に自立した生活を送って頂けるように不要な物を片付け、わかりやすい配置や表示や一人ひとりのニーズにあわせた工夫している		



## 目標達成計画

作成日: 令和 4年 11月 1 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所理念の共有	新たに事業所理念を作成し周知していきたい	会議などで職員と共に事業所理念を作成し、今後は2か月に一度発行している「えがお」にも載せたり、会議の際に唱和していく	3ヶ月
2	33	終末期や看取りに関するマニュアルがない	終末期や看取りに関するマニュアルを作成し、職員が不安にならないように取り組んでいきたい	マニュアルを作成し、職員へ周知徹底していく	6ヶ月
3	35	前回の目標でもあったが未達成である。災害時対応研修と事前連絡なしの連絡通報訓練の実施。地震・風水害対策の職員への周知や事業継続計画の策定が必要	災害対策が不十分であった為、今後事業所継続計画は本社と共に作成していく	災害対応研修を行い、職員が災害時に問題なくスムーズに対応できるように訓練を行っていく 事業所継続計画を作成し、災害に備える	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。